

産婦人科クリニックにおけるプラセンタ療法の実際

医) 寛繫会 五十嵐レディースクリニック 理事長
五十嵐 豪 (イガラシ スグル)

座長：北西 剛 きたにし耳鼻咽喉科・院長

略歴

2002年 聖マリアンナ医科大学卒業 聖マリアンナ医科大学産婦人科学入局
2013年 聖マリアンナ医科大学 産婦人科学 講師
聖マリアンナ医科大学医学部附属大学病院 産科副部長
2015年 聖マリアンナ医科大学医学部附属大学病院 婦人科副部長
2020年 五十嵐レディースクリニック 院長
2022年 一般財団法人 Nightingale 代表理事
2023年 聖マリアンナ医科大学 産婦人科学臨床教授
川崎市産科婦人科医会 理事
川崎市医師会 理事
日本プラセンタ医学会 理事
2024年 医療法人 寛繫会 五十嵐レディースクリニック 理事長



資格

医学博士、母体保護法指定医、日本産科婦人科学会専門医、女性ヘルスケア専門医

所属学会

日本産科婦人科学会、日本抗加齢学会、日本女性栄養代謝学会、日本女性医学会、日本周産期・新生児医学会、日本東洋医学会、点滴療法研究会、日本プラセンタ学会、月経血幹細胞臨床研究会

2012年に聖マリアンナ医科大学病院産婦人科において初めてヒト胎盤由来成分含有製剤（プラセンタ注射）を更年期治療の選択肢の一つとして導入して以来10年が経過しました。2020年から大学病院の近くでクリニックを開院し、クリニックでの診療の傍ら定期的に大学での外来診療も継続しております。プラセンタ注射を希望して当院に来院される患者さんの数は、1カ月でのべ230人ほどです。この中には更年期障害だけではなく、ほかの症状にも効果を認めていることから通院されている患者や、男性の患者もいらっしゃいます。一方で、注射により症状が改善しない、あるいは副作用とも思える症状を訴える方もいらっしゃいます。当院通院中の患者の症例報告をさせていただきます。

プラセンタ注射（ラエンネック® 3A）を 連日実施し脂肪肝が改善した症例

医) 川口内科 川口メディカルクリニック・院長
川口 光彦 (カワグチ ミツヒコ)

座長：北西 剛 きたにし耳鼻咽喉科・院長

略歴

昭和57年3月 兵庫医科大学卒業
昭和57年4月 岡山大学第一内科入局
昭和57年5月 医師国家試験合格
昭和57年10月 福山市市民病院 内科に赴任
昭和60年4月 広島通信病院 内科に赴任
昭和61年4月 岡山大学第一内科に帰局
昭和62年4月から 小出グループにて肝細胞培養を中心に基礎研究開始
平成元年10月 津山中央病院 内科に赴任
平成4年10月 博士号取得
平成7年10月 津山中央病院 消化器内科肝臓部門部長に就任
平成8年10月 岡山済生会総合病院 内科に赴任
平成8年11月 内科医長就任
平成14年4月 内科主任医長就任
平成17年10月 岡山済生会総合病院客員医長、川口内科副院長就任
平成18年8月 医療法人川口内科 院長・理事長に就任



所属学会

日本内科学会 認定医 日本肝臓学会専門医
日本東洋学会 専門医 日本臨床漢方医学会 会員
日本消化器病学会 専門医 日本消化器病学会中国支部 評議員
日本プラセンタ医学会 理事
日本臨床内科医学会 医療保険委員会副委員長 介護保険委員会委員
日本認知症予防学会 会員 抗加齢学会 会員

委嘱

岡山県肝炎対策協議会委員 岡山県肝炎治療患者認定協議会委員
岡山県社会保険診療報酬請求書審査委員会審査委員
岡山市介護認定審査会委員 岡山県医師会保険指導医
岡山県内科医学会 会長 (2024年6月～)

ラエンネックはウイルス肝炎に対して保形収載されている薬剤である。1回1A 日に3回まで投与可能と添付文に記載されている。したがって拡大解釈として、3A/回、日に1回の筋注は可能と考えている。一方、脂肪肝による肝機能異常に対しては保険収載されていない。また文献的にも脂肪肝に関して効果があるという臨床データはない。ただし、一度この学会で浜田内科消化器科クリニックの浜田結城先生がラエンネックの脂肪肝に対する有効性を報告されたことがある。今回この報告も踏まえてラエンネック3A/日を5-6回/週投与し、9か月後に肝機能が正常化し、画像検査にても脂肪肝が改善した症例を経験したので報告する。

地域医療としてのプラセンタ、女性の元気は社会の元気！

今村医院・副院長 女性外来
今村 理子（イマムラ サトコ）

座長：北西 剛 きたにし耳鼻咽喉科・院長

略歴

- 1994年 金沢医科大学卒業
同大学にて内科研修。腎臓内科入局。内科認定医取得。
- 2002年 金沢医科大学女性外来担当医
- 2010年 福島県立医大 性差医療センター女性外来担当医
メンタルケアとして『幸せのレッスン』を開催
- 2011年 東日本大震災で被災し、メンタルや潜在意識に、より興味を持つ。
各種心理学、エネルギーワークを学び、現在も実践中。
- 2021年 震災で10年閉業していた義父のクリニックを夫が内科クリニックとして再開。
その傍らで、漢方、プラセンタ、カウンセリングを中心とした女性外来を行なっている。



所属学会

- 日本内科学会
- 日本東洋医学学会
- 日本抗加齢医学学会

南相馬市小高区は福島第一原発から10キロ圏内の場所。
震災後は避難区域となり全ての人が街を去りました。
現在は避難解除となりましたが、まだまだ帰還者は少なく復興に向けてがんばっている地域です。
そんな地域にプラセンタ療法を積極的に取り入れた『女性外来』を開設。
未病や更年期の女性が多く来院し、プラセンタ療法を取り入れて心身共に元気を取り戻していく方が増えています。
今回はプラセンタ療法を続けられている受診者にプラセンタ療法を始めてからの心身の変化に対するアンケートをお願いしました。
その結果と共にいくつか症例をご報告したいと思います。

病気も美容もプラセンタ

医) 鳳栄会 清水スキンクリニック・理事長
鄭 栄鳳 (チョン ヨンボン)

座長：山本 俊昭 山本医院・院長

略歴

1998年 順天堂大学卒業
順天堂大学形成外科教室入局
1998~2003年 順天堂大学勤務
2003年 千葉中央メディカルセンター形成外科部長
2004年 順天堂医院形成外科 医局長
2005年 順天堂静岡病院形成外科 部長
2007年 清水スキンクリニック開院

資格 所属学会

日本プラセンタ医学・会理事
日本形成外科学会・専門医
日本美容外科学会・正会員
日本美容皮膚科学会・会員
PRPF研究会所属



医療現場で目にするUnfavorite Resultとは好ましくない結果を意味しています。

日々の診療の現場で遭遇するこの言葉ですが美容外科領域では術後の形態が気に入らないということの意味します。皮膚科領域でもよく起こるステロイドの外用剤で起こる副作用のこともその範疇の中に入ると思います。また、美容皮膚科領域ではレーザー治療などでシミが逆に濃くなるなど当初の目標とかけ離れた結果になった場合も同様に表現できるでしょう。さらに、形成外科領域において交通事故後の外傷を受傷した際によくあるのが担当医からは傷が治ったからもう治療は終了だといわれることがあります。しかし、患者さんにとって傷は全く満足のいく状態ではないこともこの表現方法でよいと思われまます。

当院ではこういったUnfavorite Resultに対し質感と色調の改善目的に病気や美容医療の垣根を越えてプラセンタを積極的に使用することを勧めています。そして現況に悩む患者様の心にも働きかけ少しでもその方のQuality of lifeを高めていくことで効果を実感してきました。無限の可能性を秘めているプラセンタの症例をいくつか紹介させていただきます。

プラセンタのチカラ ～耳鼻咽喉科治療における統合医療の実践と展望～

きたにし耳鼻咽喉科・院長
北西 剛 (キタニシ ツヨシ)

座長：山本 俊昭 山本医院・院長

略歴

1992年 滋賀医科大学医学部卒業 同大学耳鼻咽喉学教室入局
2001年 彦根市立病院耳鼻咽喉科 医長
2005年 きたにし耳鼻咽喉科 開業
2014年 医学博士号 取得
2024年 守口市医師会 副会長

役職

日本アーユルヴェーダ学会 理事長、日本統合医療学会 理事・認定施設、
日本プランセンタ医学会 理事・認定医、日本東方医学会 理事、
日本メディカルホメオパシー学会 理事・認定医ほか。

専門医

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医、日本気管食道科学会専門医

主な著書

『図解 自力で治す！慢性副鼻腔炎 アレルギー性鼻炎』（河出書房新社）
『慢性副鼻腔炎を自分で治す』（マキノ出版）ほか。



耳鼻咽喉科疾患の症状は、五感に関わるため日常生活への支障・苦痛が強い、検査では異常がわかりにくいといった特徴を持っている。このため、治療対処法がなく、複数の医院・病院を受診するケースが後を絶たない。2005年開業以降も、10数件の耳鼻科医院・病院を受診された患者を経験したことなども契機となり、各疾患の診療ガイドラインに加え、補完・伝統医療を含む統合医療を模索し、実践している。

その中で、各種症状に幅広い臨床効果を認め、目立った副作用を示さないプラセンタ療法に出会い、治療選択肢の一つとなっている。前身である日本胎盤臨床研究会 2007年大会参加以降からプラセンタ治療を取り入れ、その後は本医学会において、特に耳鼻咽喉科領域の症状に対する使用経験を報告してきた。本講演においては、当院の診療内容をご紹介するとともに、これまでに経験した耳鼻咽喉科領域のプラセンタ治療例を報告し、臨床家にとっての日常診療における治療の一助となることを期待している。

予定している講演内容

- 当院の診療内容・統合医療の実践
- 耳鼻咽喉科疾患特性・患者様の悩みのリアルな現実
- プラセンタ使用例の統計的集計
- 実際の治療例の紹介 ～長期使用例、著効例、印象的な症例ほか

一般診療所におけるプラセンタ療法のニーズと可能性

医) WHM クリニックプラス池尻大橋・院長
佐藤 順一郎 (サトウ ジュンイチロウ)

座長：山本 俊昭 山本医院・院長

略歴

2010年3月 杏林大学医学部卒業
2010年4月 杏林大学医学部附属病院 初期研修医
2012年4月 川崎市立川崎病院 外科
2014年4月 杏林大学医学部 小児外科 助教
2016年4月 虎の門病院 病理診断科 医員
2017年4月 東京医科歯科大学大学院 包括病理学 社会人大学院生
2021年3月 東京医科歯科大学大学院修了 医学博士
2024年4月 医療法人社団WHM クリニックプラス 入職
2024年10月 医療法人社団WHM クリニックプラス池尻大橋 院長



2017年4月-2024年3月 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所 老化機構研究チーム システム加齢医学研究 協力研究員

資格

日本臨床内科医会認定 臨床内科認定医
日本抗加齢学会認定 抗加齢医学会専門医
日本臨床漢方医会認定 漢方家庭医
日本病理学会認定 病理専門医

プラセンタ療法は、ヒト胎盤より抽出されたエキスを元に作られた医療用製剤を皮下注射または筋肉注射により投与することによって行う治療法です。製剤としてはメルスモン®（メルスモン製薬）とラエンネック®（日本生物製剤）が知られています。その詳細な作用機序は不明ではあるものの、効果としては保険適応疾患である更年期障害（メルスモン®）、慢性肝炎、肝硬変（ラエンネック®）の他、疲労回復、アレルギー疾患、整形外科疾患、気分障害、美容目的など多岐に渡り、その有効性に関しても数多くの報告がなされています。いくらか解決すべき問題はあるものの、その有効性は一般内科診療における選択肢の一つとしても十分に足るものであり、今後プラセンタ療法がより啓蒙、推進されることが望まれ、患者の利益に資すると考えられます。

医療法人社団WHMクリニックプラス池尻大橋（以下、当院）は医療法人社団WHMおよび一般法人

社団セカンドにより運営されるクリニックプラスに所属する診療所の一つです。クリニックプラスは主として一般内科およびアレルギー診療を行っており、在籍する常勤医の専門性に応じて皮膚科、小児科診療にも適宜対応しています。当院では、小児科診療に加え、東洋医学的な診療、プラセンタ療法に力点を置いて日々の診療にあたっています。プラセンタ療法に関しては、グループで最も早く開設されたクリニックプラス下北沢の立ち上げ当初から行われており、現在も全8診療所で施行されています。一方で現在、プラセンタ療法開始から4年が経過しようとしています。その詳細に関して、グループ内においてどのような目的、製剤種別、投与方法や投与量を用いて、どのような治療効果が得られているのかなどの分析はなされていませんでした。今回、全診療所で開設以来施行されてきたプラセンタ療法の記録を解析し、傾向を分析することで一般診療所におけるプラセンタ療法のニーズや今後の活用の可能性に関して検討しました。